

(1) 平成4年5月22日 (金曜日)

社説

各分野から対馬が注目されている。その一つに日韓トンネルがある。佐賀県東松浦一壱岐―対馬―韓国と結ぶもので、着々と計画が進められている。

当初の計画は、厳原―韓国ルートだったが、二月、日韓トンネル研究会の理事会で、計画の再検討を要請したところ、佐々保雄会長が「一部変更の必要がある」と回答した。先日届いた機関誌によると、ト

ンネル基本図には壱岐―厳原―上県―巨済島となっている。ルート確定は今秋ごろの予定と思うが、着々と実現に向けて進行している。日韓トンネル問題は、過去に本紙でも数回にわたって報じた。正式には国際ハイウェイプロジェクトの一環で、日本と大陸を海底トンネルで結び、さらに東洋と西洋諸国を高速道路網で連結する壮大な構想。まさに未来の理想世界を実現するため具体的な計画の一部

である。

八一年、「科学の統一に関する国際会議」第十回ソウル大会で、国際文化財団創設者文鮮明氏が提唱し、参席した百九か国七百七十人の科学者らで決議された。

日韓トンネルは今

基づく極めて具体的な提案である。

研究機関として八三年五月に設立した日韓トンネル研究会と、調査工事の推進母体として国際ハイウェイ建設事業団(梶栗源太郎理事長)で運営されている。日韓トンネル実現に向けて過去八年間、数十億円を投入、幅広い分野の調査、研究が進められている。トンネル区域の陸上部、海

上部の概略調査はほぼ終えているようだ。

厳原町阿連地区で試掘斜坑の地鎮祭が一昨年あったものの、その後、工事遅れを指摘したところ、資金繰りが出来次第、着工すると理事長の答弁であった。

天皇陛下のご来島や三県知事サミット、駐日韓国大使の来島などで対馬が注目されている。二十一世紀へ向い、活力ある島となれるよう、全てに関心をもとう。勿論、この構想にも。



長崎県下県郡厳原町日吉
合資会社対馬新聞社
郵便番号817
電話09205②0235
発行人 三山 忠
毎週金曜日発行
印刷／鶴厳原印刷所
購読料 1ヵ月 800円
(郵送料共)
振替口座 福岡 CD-5-33895
十八銀行対馬支店 〇10040